

要求工学について

Group-I7

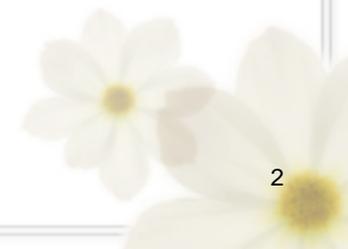
2008MI252 津川 夏海

2008MI261 和田 百世



目次

- 前回の発表の結果
- ユースケース図について
- ダフネコーヒーについて
- ジャクソン問題図からユースケース図へ
- 実例を用いた検証
- 気付いた点
- 今後の課題
- 参考文献



前回の発表の結果

結果

ゴール指向分析からジャクソン問題図の方が良い

理由

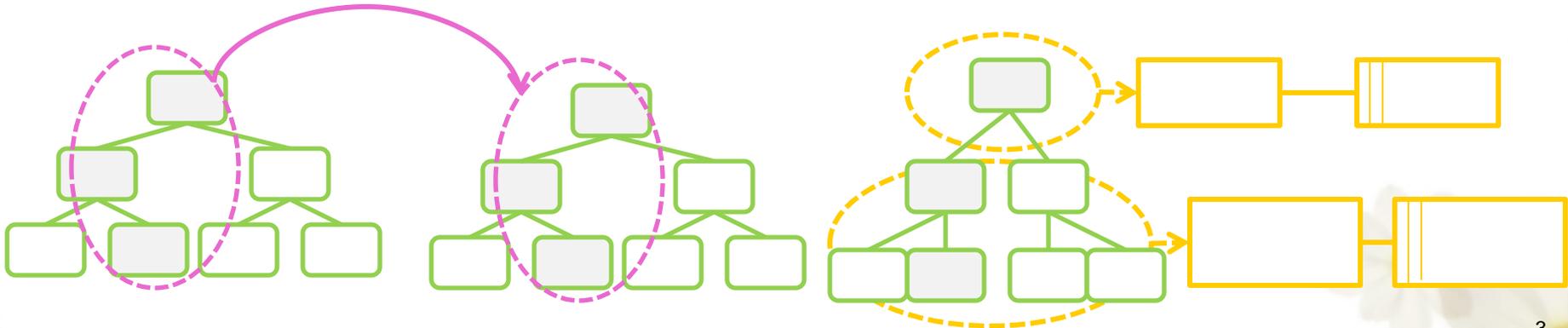
- どこに視点を置いてビジネス環境を分解するかははっきりしているため
ジャクソン問題図からゴールモデルだと過剰に環境分解する可能性が高い
- 要求を自由に分解することができる

手順(ゴール指向分析→ジャクソン問題図)

①要求を分解し
戦略を決定する

②決定した要求(戦略)を
取り出し再び分解する

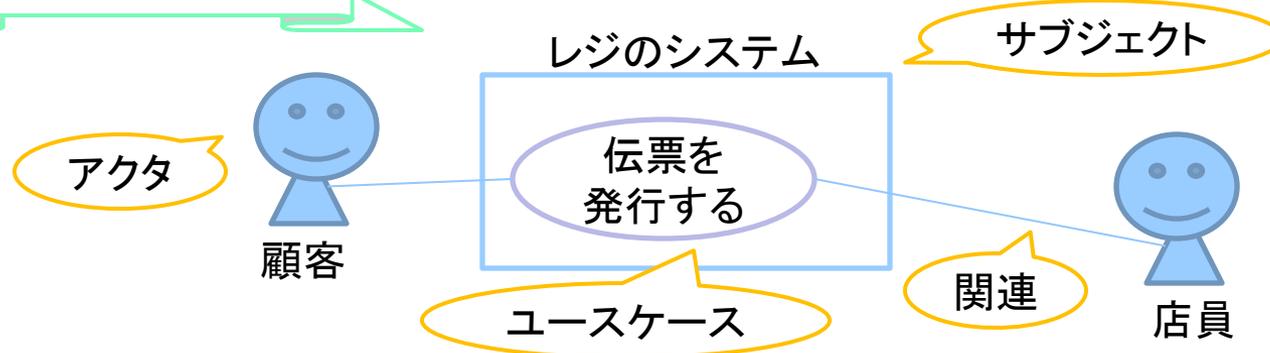
③各要求をジャクソン問題図に
当てはめ環境分解していく



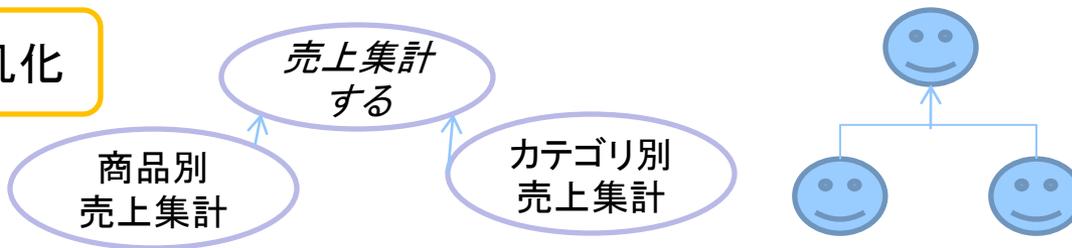
ユースケース図について

- システム要求を定義するために使用
- システムには、どのような利用者が存在し、各利用者がどういった操作をするのかを記述

ユースケース図の例



凡化



ゴール指向分析の様に
ユースケースを具体的化できる
またはアクタをまとめる

拡張



ユースケースに
新たな機能を追加する際に使用する

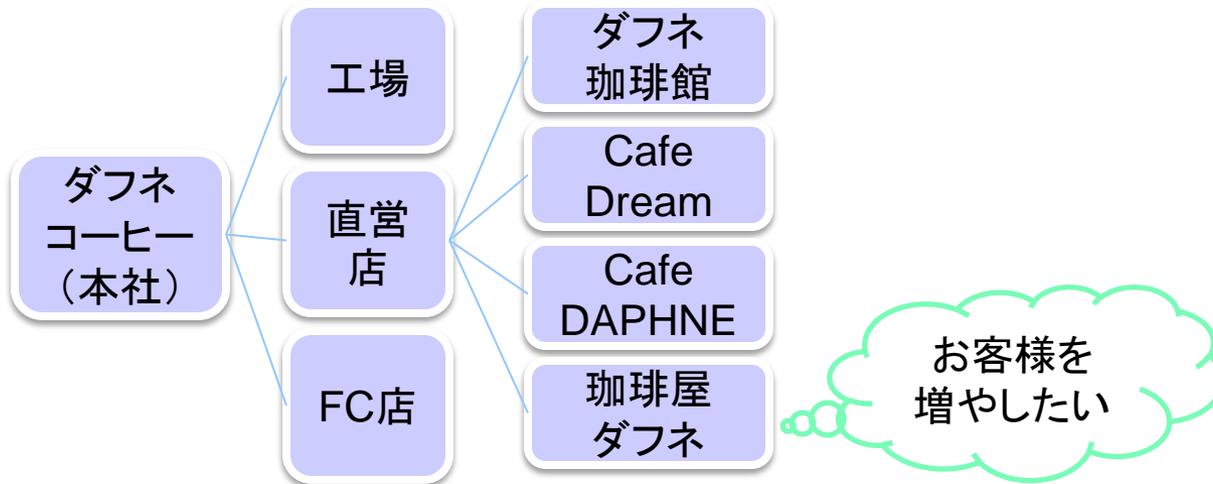
包含



あるユースケースが
別のユースケースを含む際に使用する

ダフネコーヒーについて

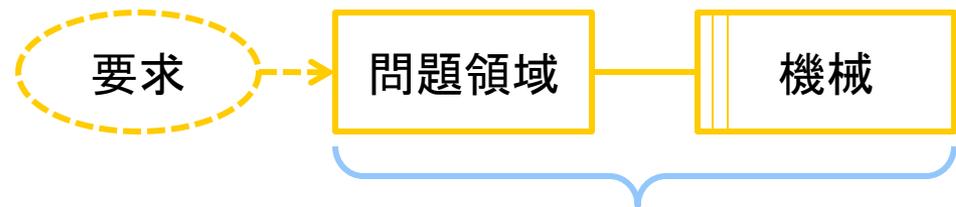
ダフネコーヒーの組織図



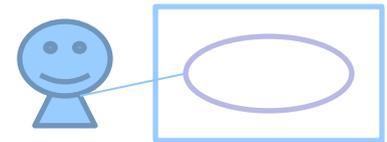
珈琲屋ダフネの顧客を増やす

…このソフトゴールをトップの戦略ゴールとする

ジャクソン問題図



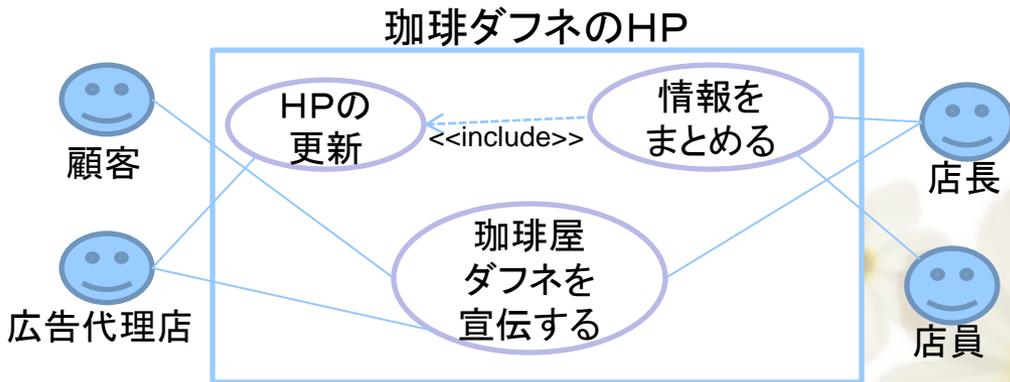
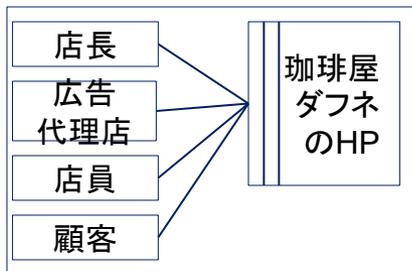
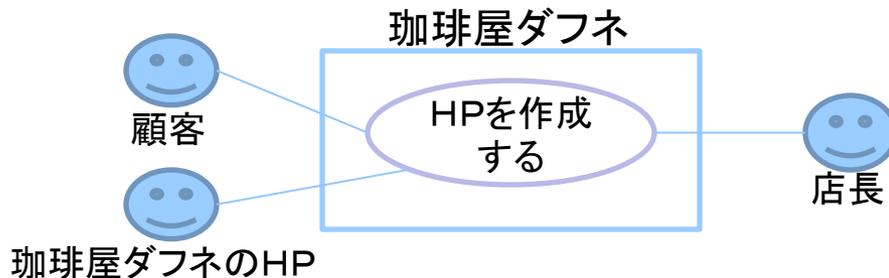
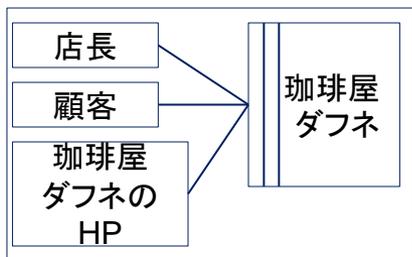
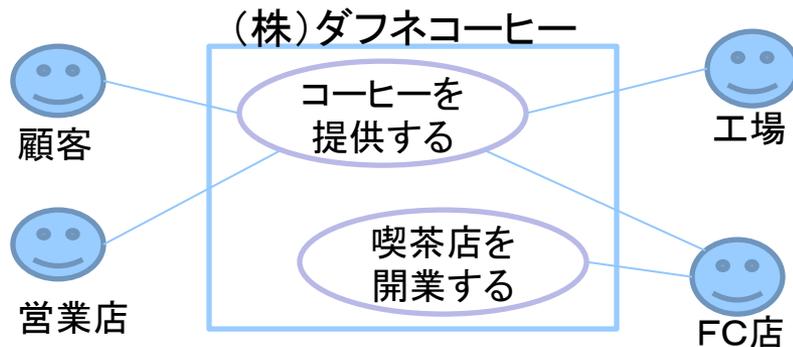
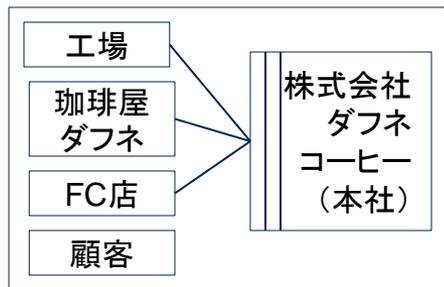
ユースケース図



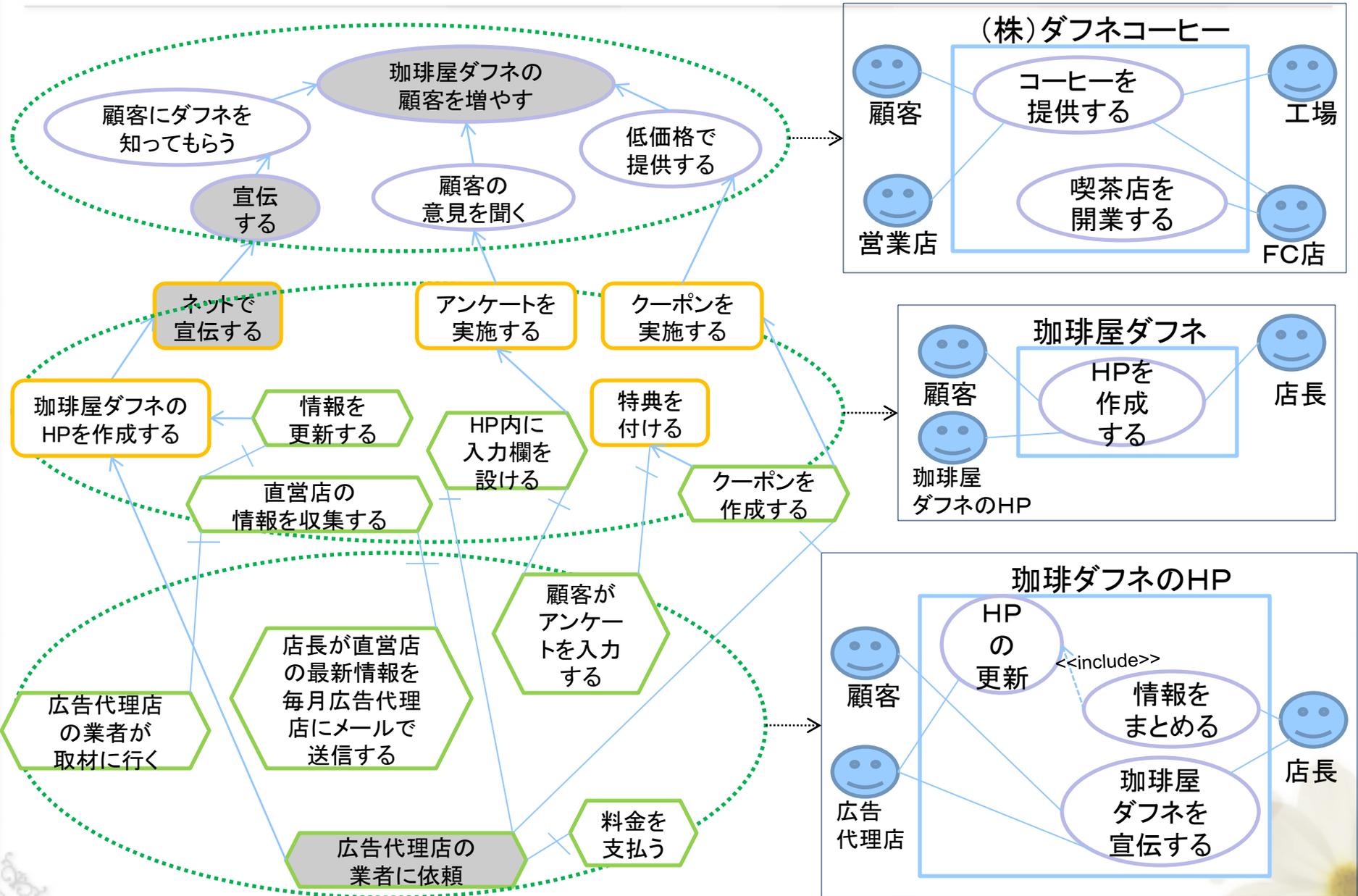
ジャクソン問題図からユースケース図へ

ジャクソン問題図

ユースケース図



実例を用いた検証



気付いた点

ユースケース図

良い点

- 人の絵などが加わるため
どんな人でも分かりやすい
(エンドユーザー視点で描かれるため
エンドユーザーと相互理解できる)
- システムや各アクタが何を実行するか
一目で把握できる

悪い点

- スペースをとるため、書き込める情報が
限られてしまう
- 詳しい情報が示すことができない
(ジャクソン問題図よりも)

ジャクソン図

良い点

- 詳しい情報をシンプルに示せる
(アクタ間の関係・要求とアクタの関係・
アクタと機械の関係)

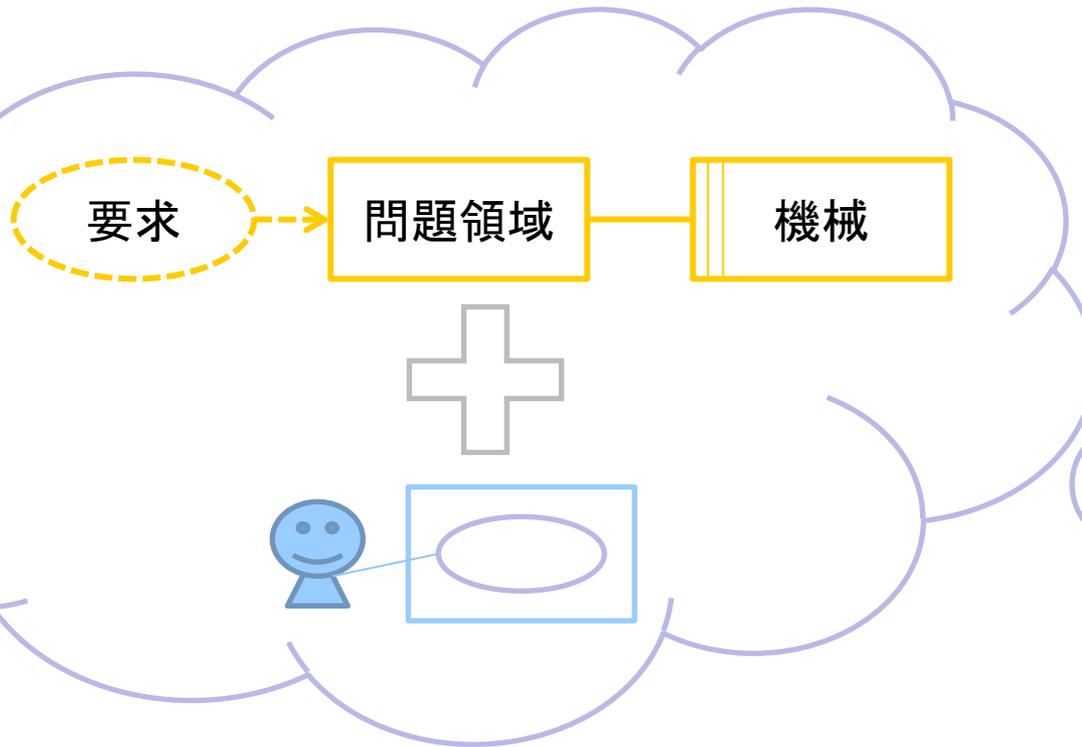
悪い点

- ルールを知らない人は理解しにくい
- システムの使用方法が分かりづらい
(役割活動図で補っている)

ユースケース図とジャクソン問題図のそれぞれの
良い部分を融合させる提案をしていく

今後の課題

- どうユースケース図とジャクソン問題図を融合するかを考える
ユースケース図とジャクソン問題図の
それぞれの良い部分を融合させる提案をしていくため





参考文献

- Requirements Engineering for e-Business Systems: Integrating Jackson Problems Diagrams with Goal Modeling and BPM

